

稚苗移植を行っている福島試験地に比べ生育初期の葉害は出にくいと考えられる。以上のことから、秋田湖東試験地は生育初期の葉害は比較的に出にくい、症状が出た場合はなかなか回復しにくいといった特徴があるといえる。

最後に、湖東試験地と福島試験地は砂壤土という共通点を除けばまったく性質の異なる気象・栽培条件で試験が行われている。このことは水稲栽培上の地域差が大きい東北地域において、それぞれの試験場所が除草剤を適正に使用する上で重要な役割を担っていると考えられる。

## 謝辞

本稿を執筆するにあたり福島県の気象条件についてご助言を賜りました植調福島試験地主任の宗村洋一氏、ならびに写真を提供頂きました植調秋田湖東試験地前主任の猿田始氏に感謝の意を表します。

## 参考文献

東北地域 水稲関係除草剤試験成績書  
 上出順一 1993. 東北農業の現状と課題. 農業機械学会誌第55巻第2号  
 五城目町ホームページ <https://www.town.gojome.akita.jp>  
 気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp>

### 統計データから

## 令和4年農業総産出額

令和4年の農業総産出額は9兆15億円。(農林水産省令和5年12月22日公表)。令和4年は、耕種において米や野菜、畜産において豚や鶏の価格が上昇したこと等により、前年に比べ1,631億円(1.8%)増加した。米は、前年に比べ247億円(1.8%)増加し、1兆3,946億円となっているが、主食用米から他作物への転換等の需要に応じた生産の進展により、民間在庫量が減少し、主食用米の取引価格(13,946円)が前年(13,699円)から回復したこと等によるとされている。

部門別に農業総産出額に占める割合をみると、畜産が3兆4,678億円で38.5%、野菜が2兆2,298億円で24.8%、米が15.5%、果実が9,232億円で10.6%、花きが3,493億円で3.9%となっている。

農業総産出額は平成27年以降、9兆円前後で推移してきて

いるが、表-1に示すように、初の10兆円超えをした昭和52年の89%に落ち込んで。中味をみると、畜産は124%、野菜は146%、果実は125%、花きは282%の伸びを示している一方、米は36%と、その落ち込み幅が激しく、農業総産出額に大きなマイナスの影響を与えている。

生産農業所得も公表されている。これは、農業総産出額から物的経費(肥料、農薬、飼料、光熱動力等、減価償却費及び間接税)を控除し、経常補助金を実額加算して求めたものである。平成27年以降3兆円台で推移し、令和4年は3兆1,051億円となっている。これも昭和52年の5兆1,677億円に比べると60%であり、農業総産出額に占める生産農業所得の割合をみると、昭和52年の51.1%から34.4%に落ち込み、厳しい状況にある。(K. O)

表-1 令和4年農業総産出額(億円)の部門別構成および対昭和52年増減率(%)

年次	農業 総産出額	耕種					
		計	米	麦類	雑穀	豆類	いも類
昭和52年	101,140	72,524	39,075	668	38	882	1,678
令和4年	90,015	54,772	13,946	647	83	715	2,199
R4/S52	89.0	75.5	35.6	96.8	218.4	81.1	131.0

  

年次	野菜				果実	花き	工芸農作物		その他作物
	小計	果菜類	葉茎菜類	根菜類			小計	茶	
昭和52年	15,264	7,680	4,372	3,211	7,339	1,131	5,015	1,216	1,435
令和4年	22,298	9,960	9,415	2,924	9,232	3,493	1,551	471	607
R4/S52	146.1	129.7	215.3	91.1	125.8	282.3	30.9	38.7	42.3

  

年次	畜産							加工農産物
	計	肉用牛	乳用牛	豚	鶏	養蚕	その他の畜産物	
昭和52年	27,907	2,906	7,010	7,774	8,116	1,534	567	709
令和4年	34,678	8,257	9,013	6,713	9,716	...	979	565
R4/S52	124.3	284.1	128.6	86.4	119.7	...	172.6	79.7